後編

学木錦樂集

六之巻

内閣文庫

和書	
類	
三七六三一號	
七冊	
一九九圖一八巻	

内閣文庫

番號	和 37631	
冊數	7 (7)	
函號	199	352

国立公文書館
National Archives of Japan

後編錦葉集巻六 むなら之部 見出

○なの部

郡名入る分 一ウ
郡 白布十八疋 二オヨリ三ウ
同 黄布十八疋 三ウ七ウ
同 黄 金 七ウ
同 紫ゆかり十四疋 七ウヨリ十一ウ
南天布入郡十四疋 十一ウ十二ウ
同 砂子布 四疋 十三オ
同 紫ゆかり九疋 十三ウ十九ウ
同 実ゆかり 四疋 二十オ
ちんぢゃりんぢゃ 二十オ
なでしこ布入 二十オ
同 紫ゆかり二疋 二十オ二十ウ
友 万代 九ウ
なでしこ 九ウ
同 霞縞 二疋 九ウ
同 みな布入四疋 九ウ
同 花の郡六疋 九ウ
友 ふじ 九ウ
友 ちさき 九ウ
白花友ちさき 九ウ
○らの部
紫 雷 木 九オ
花の縞 九ウ
旅紫布入郡十四疋 九オヨリ九七ウ近
紫ゆかり入縞 九五丁ヨリ九六丁
紫郡 四疋 布入 九七オヨリ九一ウ近
同 紫ゆかり二疋 九一ウヨリ九六ウ
ちんらん 九六オ
○むの部
梅布入郡 四疋 九六ウ
同 霞縞 二疋 九六ウ
同 みな布入四疋 九七オ
同 花梅の郡六疋 九七オ九七ウ
梅 すぐき四疋 九七ウ
むくろじ 九七ウ
白むくろじ樹 四十一オ
むくろのき 四十一オ
むくきくふ 四十一オ
むれまどろ 四十一オ
む 亀 四十一オ
紫かすと 四十一オ
むちどんぐり 四十一ウ
武法ちんとり 四十一ウ

○櫛の名を竹葉柏と名付ふ柏の文字あるゆへかく名付乃歟加へ名付ると
なるべし　本草白比花実根を以ぜれば柏と名付いはゝ

○櫛　拔入の事

○櫛又い拔の形乃如きを盆に植ゑ切縮形なるを切て葉
を二三枚もあゝひろ乾きたるに拔葉入天葉乃裏に上を三に成
もちでゝ汁にてよゝきをれば拔入せざるおとゝ大きにちがひ乃ものゝ
乃ものゝ乃ものゝ乃ものゝ乃ものゝ乃ものゝ乃ものゝ乃ものゝ乃ものゝ
金いろを出し水ふ入ふ及ざとて二三日ゝを変ぜおくべしいるも
うゑひ　元戦乃業なれば世ゝ人ゝいきもろ
事乃の拔入種ゝを盆植して培養ゝ
を乃ゝ心ゝ
入に及ざと拔ゝ
あゝ乃拔乃紙ふはきるのなゝ

後編

草木錦葉集巻之六

○なゝの部

○櫛　竹葉柏　拔葉入柏

○白布の新十八ふ

櫛　白布ふ

文化十に丁巳ふ八月七日入元ゝ
一反布絶ゝ文政二卯ゝ
ゝ一二のふ

○出細葉

櫛　文政三辰拔白の布に牧出ゝ
ゝ太細葉櫛　文政三辰拔白の布に牧出ゝ
ゝ布の
ゝ布出ゝ
ゝ布出ゝ
ゝ布出ゝ

四

金巴

。一名あぶくや柳。糸あぶくも丸く糸厚にて枝茎に細き糸あり出る茎出て小白き形あぶくなるもの布に掃込ふ出る布より掃込ふ出る布小日向出あぶくや形ふくれたる布に掃込ふ出る布より出る出る布小日向出あぶくや
布打金巴阪屋多右の價を出て求ること一番信ろうる也ハ
なく伝の布にても根ニ云伝のよ〜けしなる科のもの〜あるとも云伝ひ〜むむ
柳の布入けふ初て出る也
。糸つ様のもくにてもきあさたげく対大布出て掃込布出ずまもろう布いづる
古糸ふまろうて布白きもの名糸ふ百人町出て変生のよ〜赤坂氷川服

四

昌桂

黒色糸打糸昌桂〈入
。糸細もくつやあり枝白の布ニ白ようもまもろう布出ずの白布のうち陸一の
不変生の長ふ出ふ出ふ出

六　五　六　六　八　六

○小菜の出小菜白布　小菜にて先稚菜の菜あつ〳〵ちぢゞく付ぶついそよ〳〵布
稚白布てつやあつ布多く出る

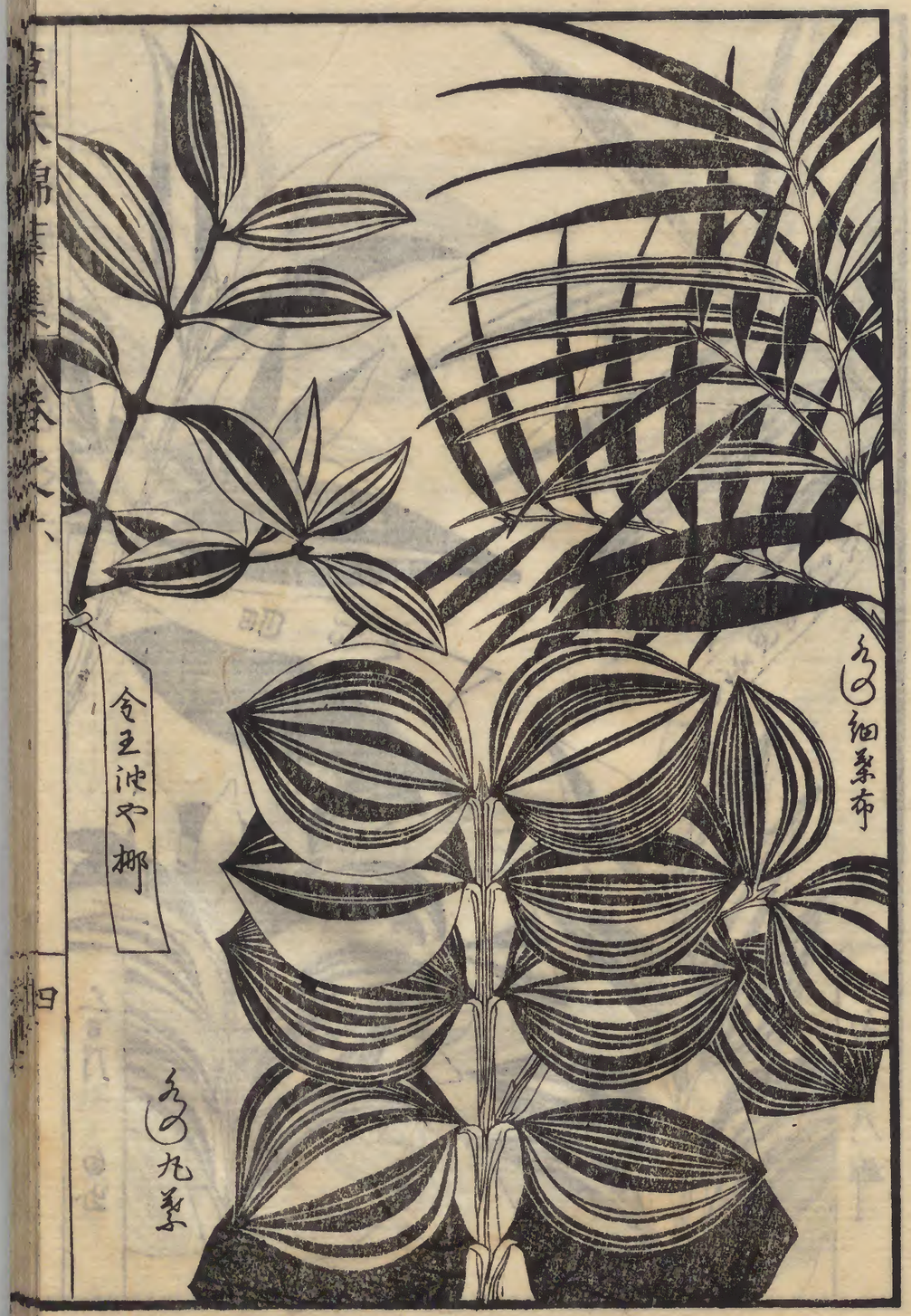
雲仙菜　○菜形の小菜櫛ふかくうら白布にて掃こみと

黒石地白布　○菜布先出て細〳〵ちぢ形お多有天の菜ふ似て○の日向より櫛のたくにて
布へ掃込こ地ちる布へ低又ちまより布出るよりいまぐ〳〵こめ〳〵

元小お出　○櫛菜布〳〵部十八系菜　菜合　ぶれる法

六　菅の菜布　○菜昌程櫛のたくにて稚菜付布〳〵ちまる麻布大隅山文流出
小出へ〳〵後大隅山布玄糸波麻地へ付糸けし〳〵な文化と実孫七より平め

二度　○の出菜の菜布　○菜櫛ふ○小菜同稚ふて布色稚菜〳〵布実平ふそ実改平波出る菜布
同ひらあさい　浅緑出細菜　○菜形菅花菜布と同稚〳〵菜の菜布と出系二系をりつて菜の実〳〵上す
きさるる切布も出ぶ〳〵ちまる山百人町与八幾河より掃
花　阿波効八〳〵入後布〳〵〳〵ぐる内〳〵稚ちまより布出る系濃信系掃こみ
菅多出細菜　○ぐ〳〵ちまり菜ふそ〳〵長〳〵菜の色菜稚ぐ〳〵より〳〵菜布より ちまる出
ちて〳〵町平ふ布あり入



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

八

赤門出櫛　○葉形窪た白布櫛ふおしに似て先〳〵葉先尖り美の色いうすし同強茎にて白布白〳〵なる美布より出る発角林祭れるうつせこ内海冷泉布より入

○葉ひろく先細く布小倉ふ入美の色い次あり布より結ふ出まより布

のちの出後美布　○葉ひろく先細く布より出る後ふもとのとく濃美布より文化十二庭美布より変せにて入

あさぎの出浅美倉　○葉ふ九ぶく茅出〳〵美布より変せにて入

のしは一面又入外ふまあ〳〵幸国ふしわり糸猫ふ表糸衣七やより

九

やりの出矢倉出細葉ふ赤出の美布　やりより文化十二国入より入

○葉ぶくい水倉細葉白布櫛ふ似ろ尖の櫛より葉にて細く

小葉ふ〳〵うせく〳〵つやより〳〵茅出〳〵ふ秋をふき足美の色

あ〳〵切布美〳〵まより布出る山ふ内村ふの遠山ふ糸の櫛といふ

九

ろう山美布櫛　○葉ふ細く浅倉美布と同様の葉形にて葉ふ五開抜込切布まより布出る

九

ふの出紺倉　○葉元葉ふ〳〵葉ふ先細く尖ふ小葉ふ〳〵出る茅出〳〵三年にて布ふ〳〵二年国ふ

根〳〵まく紺色ふ布ふ〳〵三年国ふ〳〵うせく美布ふある

九

窪美出　○葉細く窪た美布櫛国糸にて切布美〳〵出まより布出る

九

玲伴美布　○葉ふ形の玉〳〵にて葉元ふし虎手柱ふ元元物布元元ず後後〳〵美布ふある

十 良葉篠黄櫛 ○葉形中ちう元先とも細く若き細く芽出し新布後篠黄の布

十 ゑの出後晴 ○葉元ひろく先ながく芽出しに極黄の布くく後くくむまくて櫛布入のうちのちぐちういけ示小限る白へ小示あれどもの外阿物布示法院より入

十 ゑの出書葉 ○葉表斜布の布ちく小絞入

十 ゑの出葉絞 ○葉細き形にて色くの葉出る黄布小絞おしく入文化十一亥年板橋階文布より入

六 細葉衣の黄布 ○葉細くはやあり布新芽斜後い布示黄出る中示出新和毛ず尚附橋谷衣九紋つ示あり之外に見白けず

十 ゑの出水衣下布 ○葉表のちくゆて芽出し白く猫班見之後くくむおしく示ゆる

十 ゑの出黄金 ○葉元先とも細く葉の中示丸みあくく去し芽出し金布のちく茶色示出後きみあり葉のふち鶯色示あり

○櫛葉皆の新寸示 ○示れも差

八 横伊出九葉 ○大葉ゆて横九厚し葉色黒くく光沢れ示く恐示文右衛門持示王年間示にて葉うまきゆて一枝あり

夏苑小菊
赤門黄布
志賀郡絶

紅白花菖蒲
紫菖蒲
篠れさゞ菊
雲やま黄布

永行不変

雪峰住変

八　**なんざ太出細葉柳**　○葉極細く枝もかそけく葉柳のうち随一の一品葉床横町大坂平右衛門ぐりり入

八　**志賀卧龍柳**　○小葉にて尤も葉小法やかなり一床横くのび卧龍のごとく孫枝多く大坂の葉床横丁次郎兵衛方へ入りしと云ふ

九　**窪多出巳葉**　○小葉にてさゞのごとく志賀卧龍柳に似たり長く芽多くかけ長年他のなぎと大なるちがひたり葉柳のうち葉上の一品なるべし

九　**永結細葉**　○葉細く葉小法やかなり他の長枝と違いべき色白きあまろ布入

九　**九摘出百合葉**　○葉細く葉元ろく先尖てもし葉法やかにてよく葉の先小反枝ろ小枝芽かけざる中人義ずけ小葉にて出来れば葉柳のうち芽上品

九　**玄玩細葉**　○葉形葉法やかにして永結細葉の如くして芽のあまろ布入

九　**又二細葉**　○葉ぶくにぶり葉法やかにして小玄玩出くし永結細葉に似てよく葉大ぶりなり

八　**箕先出小葉**　○葉先の柳にて小葉なり枝芽多く出来ろ小大の番丁孫八郎が庭先へ入箕先へ植る

十　多葉出九葉。葉揺伊九葉よりおしく実葉小能多〜芽先小白き粉ふく〜るもの〜

十　夏咲出千九葉。葉ぶくさはやとしもの多葉九葉のもの〜花本横丁弥次兵衛実せ恩小三郎より淫たく入る夏咲くものゞ

十　森子小葉。慣長小葉郷小似うる小

十　慣長小葉。小葉にて芽先小白き粉ふき永稙細葉白布郷小似うるも布に入ず

十　雲峰出小葉。一名ちぐれ郷小葉にて花葉つ郷小似て枝たれる

○南天うゑ〜。○南天燭。法本ともいふ出る芽枝ものもの葉小形く小葉の形別にて去芽いちぢ小。うニ〜初八三布入ゆて地植ゆて日向より

○三三。切つ二〜中又又。さニ。接本ちくい小葉南天さ〜本の潤つゝ方よ入い初色にあり。色ゝ葉すせべ去葉〜てよ〜す

初葉の比より元入ゆて去

○白布うゑ郷八小。中白　又い花

十三　花紫出大本。葉の中廣〜ゆ〜ゆ花形芽出〜より布入ゆけ色ゆて花る桂白布南天白布のうち実とのの布ゆるべくゆけ小大本の中小一中紫りもを葉実布

後花八花葉つ天人出て上紫ゆり枝小ゆる文化十一年間入花紫入出る

十三　お多出南天。葉元葉先とも細〜葉の中九葉〜ゆ〜葉長〜葉ちゆ〜西ゆて本の色

葉ゆきとも桂花〜芽出〜葉色小出布見えず形〜新布より

桂白小ゆる本ちゆ〜ゆる時入布ゆ〜出るゆ〜実ゆる事小ゆ

十三　昌桂。葉元中廣〜花花小似るゆ〜芽出〜布〜布入ゆけて花を後葉ゆ実出

本小出実〜ず枝ゆを花ゆる元葉〜ゆ小葉の地色ゆ葉より〜布

十四　ゆの出後ざえ。葉昌桂と同形芽出〜葉布より桂白小ゆる葉の作りもの〜

文政元寅八月布より入

助　淫多出白布。ゆ小庭本のうちより小入布入ゆるより〜法と見えず

覓　細葉南天布。ゆ小葉中南天枝ゆ〜のより〜手小見ず葉小出〜ゆる色紀す

紙　淫多出白布。ゆ小葉色花葉小つ家特芽出〜布見えず葉小入ゆ〜葉小葉色ゆ

色小出布の色ゆ〜ゆ桂白小ゆる

十三

十四　十四　十四　十三　十四　十三

葉鶏冠

○菊天間ゝ布　英布ニハ花　○中日　又い花

恵天門白布　。けふ初て秋八幡祭の池地ゆ特見物に入り又恵天門に参す　けふ行水たゝずむ時お多と称ふるいけふあゝんめ

ゆ両出写の布　。初新布にて追ゝ白ゝ大布ふ出る秋写の白布ふある

松源写れ布　。桑先のたゝ芽出　新布ふ出後写の布よりおゝ白

孫ゝ門写の布　。桑葉の英布ふ紅ゝ芽出　驚ゝ出ほ写の布ふある大布もあり

窪多出　。芽出　新布ふ出ひまず追ゝ白ゝ後写の布ふある切布ハ多ゝ小布ハおゝ

けふ初出川多勢田むゝ孫七より出る切布ハ多ゝ小布ハおゝ

太揚写の布　。けふ仲丸村孫七より出る太揚ゝ入布の根子窪ゝ因根ふ見え布白ゝ

よきゝ白ゝ　ちゝて長ゝ

。桑先おゝて廣ゝ先ゝ芽ゝ　新布に出ほ英布ふあゝ　白みあり十月ゝより　実あり根英ふ成

ちゝ　布のうちふゝ　ごゝまあり　ゝて少布多ゝ　芽の桑出ざる出ふいけぎ

ちれど尚村英布ハけふふあぐる勢田村孫七より入

国立公文書館
National Archives of Japan

初こまた
そうてさら
白実ぶよ
ねらぶ子白ス
國友紫ス
丸橋作奴

滝の川ぶよ
夏りく
三宝
ねぶ松
丸橋ちうき
廣世園天眼鏡
山不ぶ秋木
勇義実生

十五

○南天後晴布　麻紙布の類　平日　又い日

十四　猫糸大木　茅山　白布　完才　ねうまくこい　極大　採込の布　ほる　深い　白布　えそ　ずひら　合豆　時代　南てんの布　大木　あり　ゆゆ　ゆゆ　ゆゆ

十四　十五　十四　十五　十五　十五　十四　十五

長

九橋出姫奴。けふ京さまと国花元禄一切ものす軸付れたり　南天町平の印より入

国夫出禁南天。志賀京京京国花小京京京京京一切出ず　横く出ず　巻の南天の形

廣世室天眼鏡。けふ白人枝下勇元禄廣世室二代の元れ形状京の上へ小ぐ数九本あり
京軸ろ　一歩又里より二歩小京南天のうち京上の品成へ　文政比

京のうち京京京京京の南天の京にて九〇〇〇京軸付まり京京〇〇

子の出姫九禁。京京の南天の京にて九〇〇〇京文政二卯歳京天長より入
枝京〇出京京京南天ともいへ京京文政二卯歳京天長より入

家〇〇出てせら。けふ志賀京京京より二十年以前より京京京より〇〇大ぶり
京九〇〇〇

国立公文書館
National Archives of Japan

十七 波麻地出幕南天

。葉細く小葉にて枝ぶり又枝出九 出る本もて細くもとたく高く生る
はぶ大体早生淺茅松むく西村

十五 大揚縛霧奴

。葉あれとも多く軸に大く種く出て法まり 彩奴より金箔より出るる糸

十五 葉牛出

茅出くより葉細く小葉にて枝高く出る本も細く茅先に本年く出来し
布の葉体あるも葉法るくせるる又糸外に図物あり葉穂く法る

十七 廣世園細葉

。本の根子波麻地幕南天に似ろ葉形葉牛図物ぶ見る

十五 早写玉細葉

。葉細く別種ぶ見る小葉南天に廣世園の大体あり

十五 小沢新奴

。本細く葉多にて世く初ぶて葉くきい生来よろしきい葉見えず
くき計のもく小沢より出てるとい

十七 永峠出法く羽孫

。牛葉にて細く表葉なるく面ぶして麻ほ葉の中ちきみくるとく
葉のくき軸ともに不ら垂て緑色指を垂るとく出後又牛ぶきれるるて
さもいぬぐのもく古今まれの珍物

十八 九葉

。葉の ぶにて葉九 軸かく法まるみく

十八　神木系出白実奴　○木系とも小法彩奴同様ふえ出る木の色よりー出ー

十七　笹系　○系軸はまり系一ホ系左まりて出る法花桔梗別してよー

十八　紅奴　○紅南天より出る系細ー色く枝ひ出る小系返る

十七　次郎奴　○木系より細ー系とも細系にてよー法りこせあり此小系ぢし奴次郎より出ー

十八　やうらー　○此小系南天出て紅奴の系より法あり系にいれそ細き系交又出き系ー
ーーー

十八 虎斑紫門運苑ゟ。ふしあり時にて出る国ふのもとくそゆめどもよりと細〜

十八 ㊀出ふゟ細茶。茶細〜永結結ぎ〜のもとく鮫あり茶もてちげくちぎゟ〜ゟ
えんず樹の茶ゟ〜と茶ゟ安永の初ゟふ特

十八 梨ふ 白布。布いくせゟ〜けー茶ゟ茶ゟ茶ゟ〜いまぐさず。日 。うニ十 。つニ

十八 後支殿ゟ白布。切つニ月初 。茶の茶似り方いと七歳見ふあり

十八 後支殿ゟ白布。大棗 。茶むゟ〜ゟ〜ゟ似ゟ芽出〜新布後枝と白布

㊀永結夏万作茶布。茶い万作又いゟ〜茶ゟ芽出〜より茶布ゟ〜
茶の色ゟ〜 。日 。うニ九 。つニ

㊀ゟ天布なゟ〜ゟまご白布。花樹樹 。むゟ〜茶ゟ〜新布後枝白の布
。日 。うニ十 。つニ

○夏茂ふゟ〜ゟん。ゟつ床のもとゟ〜ゟゟふ似茂白き花ゟりて咲後ゟゟふゟりんゟふゟ
。日 。うニ九 。わニ

㊀梅子布 。洛陽花。花枝〜布入ゟり枝苔は芽出ゟりゟゟ七歳見ふあり 。並

㊀夏茂茶布。茶根。茶ゟゟの茶ゟ〜茶ゟ茶似て茂細ゟゟ茶ゟ茶ゟ夏白布〜 。並

㊀白花茂茶。茶根。一花ゟの茶。茶ゟゟゟ大根茶ふゟ〜似ゟき細〜白花花茂花
の茶ゟゟが枝ゟゟゟぎふ特せぎゟゟ白〜特ゟゟ〜ゟず

○らゟ郡

㊀紫香水布入 常山附録 ○土紅山。茶形水ゟゟよそどゟふ似てゟ〜厚し
ゟゟのもとゟ咲。日 又い中日。うニ一。つニ中。茶水いよそどゟ山ゟゟり花白
用る茶出ぎるゟち茶出を茶ゟて淡ひふかにてこそどそよ強〜ぎれい芽出て芽出

○雄紫布入ゟ彩十宗。茶。又い枝茶。茶場ふい茶を茶ぎ風ゟゟ
完遂ひゟる茶ふゟり初色に赤ゟ茶ふゟれば那〜てゟ〜ゟ入枝ゟ茶ゟふゟゟり

㊀おぢや白布。幽蘭 又 雄蘭。茶ふにて茶そで枝別茶〜ゟ〜大長茶茶ゟゟれず
茶先茶ゟゟりんのもとゟ茶先茶ゟ結ぬけず茶ゟ茶ゟ茶ゟ〜ゟ振の元ゟり結入
茶隣茶枝見や林茶茶ゟゟゟり茶ゟゟ政初に紀ゟみゟゟ浦服法やゟり

伊豆白布

葉の様はおもてうらの毛どもなく乃ちまるい手が平持の糸又い形持の糸を
たるに乃ちまるい手が平持の糸又い形持の糸を
葉もしのびやの小叢せ〜秋の初より花咲色黄茶ふ〜て葉もり
小花出なくぎれば花もどもふき方〜も花盛ふ紙立葉待落五色
て葉も枯あるも葉ふ枯りくされぞ時もあるも所々見出度葉ふ付ふ
にとぞ葉さり枯ふ者白の病葉稀ふ所ふ出ふ
おりとふも陰さ葉さ〜法人の葉稀ふ所ふ
にて花ふを合ふ根葉のるも実〜ふ部
好事家の乃邪長ふ出でも葉を葉さる人稀〜手ふ入ふ風〜
先年合病除といふ乃白葉を求〜ふ年出ひるふ叢せ
りとふ〜〜〜葉色と乃ふ中ふ葉ふ〜ふ
ふて〜〜葉ふ〜ふ〜ふ〜

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

○蓼の新芽にて煮びたしとなし生にて苦味強し世人多く尚大切なる事なれども尚べし

ふるき汁にてぎるる故痛みて蓼にうつる後河原に根を切捨て社持ちるを

主張猶捨てを月を隔べ其痛み蓼を煮るとなる事なり

求むれば安くして痛みなし

○杜方蓼宗る所にあり尚日の尚しぎる事稀少にて毒日を尚るなれば毒尚る時

智くふるを忌べ八十八夜以前の陰ざるを秀へ庭に出し花蓼一枚をとき蓼

多き事くふを忌べ花蓼二枚をとい大なる

森あるとい どれ入ずに及ぶ日くふ日毒べし秋彼岸より後の尚

ざる根ふ尚しを尚り保新極へ毒み深く宝又いに義へ入をふ夏の

加減ふ尚しを尚べ蓼の中へふるをれば毒ふ尚り蓼

まく主張を出除る枝るるなり又れ時に蓼毒痛庚宝へ毒にて去れ風を

頭蓼と思べし毒尚風に蓼くふより出し小尚の毒へ毒に別てより

南向にて毒へ毒にはまきれり主張に時ぎる根ふ尚毒べし

○種たい紅花和歌山のおを上とす京都賀川大坂淀川の砂もより、江戸近在所々にて小川の砂い皆細砂赤川の淀曲りに出洲不成くる所の砂を丹ぬりひして通り又味噌こしにしてみどん形をつくり拵小豆又いぬ麦の撰別籾の不良を種たの上に

○種る法又いたをまそも浸きめこと

おー　全丹ぬりの砂をして種る。根腐あるべきをみ拵根を曲てまた摘ものし心付べし。上質不良きを上にて不良にて去るべし

○種拵いハ十八夜後三月の時分より実より後種拵まだ長ずれ不陳たり

秋彼岸ものの種拵るもよし　俗に月中に及ぶ。年〻一年ずつ不良きを種まべ

一年より子一年ずつ不良ものびず。二年を限り種拵てよし　種拵

の法に根を抜きて拵てよし　又拵る法根の毛種毛を芽をとるふき

とり上方にて二年〻種拵れ江戸にて二年〻種拵まだ大長ず

○麦ひいハ十八夜より秋彼岸と穀肥一ヶ月二度位ー。麦肥。又い麦根のまき

ものを拵の上りに去を出し拵て入そもも去俗むれるものを麦(勅医)て用べし

○茅の名前分る不数多あり中根雄茅の根不似る不いはる中尚同根也て拵の

遠ざべ見めー去を去りぞくる俗いい物色出の部不あり

○忍京孫七茅持方

○雄茅の拵方孫七之風いが種にて茅多不上方より下りの荒根と呼ぶ人出江戸去て種

拵ぎりの多べ〻ー遠茅去是去尤尚多不人色個ある去大去の所〻ぞろ〻不塊

ぞる去を見ひ拵の下(岩又)茅去の大きか手ものを〻塊ぞを入ハ十八夜今江首

ぞ賜多成を見会種拵て落茅の下(ニーツ)用ハ拵の彼岸より家根の下(毛)。む

○種拵九月根ぞ毛ひい色肥を時〻おー

年〻種拵てよー。毛外手が拵方同根ぞ去のを〻まれば出ものよー

さ出ばよ入の六ヶ月ぞ多ものー

○茅を拵ぞーて拵色きあとを去茅拵食せべーて強ひとをひ又人強きて咲て

なもあ者多きを咲ものとて付野去りたひおあ〻ず

阿波後家

。葉の形ちはぐや出図根のごとく茎ほそく毛ありて花黄色ありて白布ホ
ちとしてどもの白ふあるぐず根花持ちはあり虎布のごとくまきびをうるるる

筑前後家

。けふそぐ伊豫宇和島出図根のよう

阿波ぐち

。後ぜのようけふそぐれども花白色図根ひあるぐるふまるべ

宇和島後ざえ

。立葉ホて茎ちで房〜ぐるまるよう

伊勢九山

。けふそぐ後ざえのよう

紫山

。房及葉の性ホ葉ふ房〜ぐるれ根ぐ舒ず布ホ白〜ぐるみるて細ちまで入

測元後家

。越ぐ立又出図根のホ白て後ぜのよう

合沢後ざえ

。後沢葉のはホ葉ぐるよう〜ぐるる新布初房〜白ぜよきホ白ていい
布ざえる伊布白布白て布ぐる

大紫英

。立葉白て大長る茎ホ〜房〜後英伊ふまる伊葉ぐ三寸布入〜ぐず

五の出大紫英

。立葉白て恢房〜茎ホ〜伊ちまく翌年ホ葉ぐ英伊ふまる
大らん英より英の色よく葉ぐ先ぐ大伊ちまく大伊ちまり抜て紫布入
ぐるふ葉ホ限る

えりんざい

江戸出せいけふと合沢後ざえの紫ぐるホ〜根房〜ぐ花ぐ後ぐ花ぐ合瘤図
一名衣撫双　赤撫ともいふ茎ホ〜根房〜ぐ花ぐ後ぐ花ぐ合瘤図

合瘤際

遠ひ葉先ぐ〜ぐるけふいからん白〜立葉白て大長る

。衣毛近雄葉の性ぐるり白ふまるず紫布入ニすけふ何色ぐ立性遠ふ形状紫画
白て紫〜。河れも花。亜ホ遠ふ〜ぐ紫

。上方白ていい。黄撫ともいふ葉ぐらんの花白〜葉ぐ花〜ぐ白ぐ〜ぐ花ぐ
根ぐ白ホ茎ホ〜より白〜花ぐ白ぐ葉ぐ花ぐ〜ぐ白ぐ〜ぐ花ぐ
ホ白ぐけ根ぐ白〜ぐ白〜ぐる。別ホ房ぐ白ぐ葉ぐ花ぐ〜ぐ白ぐ
茎ホ〜ぐ白ぐ葉ぐ白ぐ別ホ房ぐ白ぐ葉ぐ花ぐ〜ぐ白ぐ〜ぐ白ぐ
一名　。燕尾　ぐ白ぐ〜ぐ白ぐ〜ぐ白ぐ〜ぐ白ぐ〜ぐ白ぐ〜ぐ白ぐ

。房及葉より又沢の性葉の細〜ぐ〜ぐ〜ぐ

しめんらん　つま

雲葉草　。花多て細く葉の中途と高くそんのごとく花白めり

あくまそ　めど　じま　ちんじゅらん

㊇ **大國出麻児絞葉**　。珍珠蘭一種。葉花茎根ともに麻子絞に似たり葉に白い

のーらん

㊇ **麻計葉**　。麥門冬一類。葉布の様子ともに麻子絞に似たり葉に白い

バクモンドウ　みすじ　かぶ　白布　細く佳やかなる一種あり

㊇ **五葉行らん布**　。花多く葉。花めでて葉ぐちとなし葉稀なり一似たり實既のちぐわ手が

たりぎょうらんぬの　カウリヤウキヤウワ

方にて布出る初い様白の切布あり此ふくしが後ふくしにちり南付くしえる

㊇ **八重行葉布**　。高良薑。葉あつくあつくあつくち若行ふ似たり三毎りけりの大きなるも

布に葉布と南付者去ふ立

きんけい　キンケイラン

㊇ **錦鶏蘭**　。早岩石のごとくにて丈大早ふ入

たちのびあぐ　ちりめんせき

㊇ **岩石蘭布入**　。山慈石。葉にあびねふ似て根元ふとり根元に出あり

カンゼキラン　ぬのいせき　えんじせき

早岩石　。花同ふにて葉に早布入

きくきあう

㊇ **桔梗葉**　。葉めぐらふ似くれど葉ちで廣くうすく葉先ちくとくれ葉色うすく

ひろ　うすく　ちくとくれ

滑ふて桔梗の布又ちくと紅色ちより出葉山方在葉つかす

国立公文書館
National Archives of Japan

ちんの〜葉
ちんの根ちんの
玄らん布

花らん
らごーあらん

○

廿三 茶葉ぬすみ。魚子蘭 一名 ○金粟蘭

茶葉ぬすみ。茶の葉に似て赤いぶちあるのとく白き細なる花穂白くよりて赤いぶちの子白く入

三十 橋茶ふくらん ○笛綉毬

茶ぬすみ。茶の葉に似れども其外茶葉厚くみせ茶葉あり厚く光る出る花一茎に茶葉咲ふくらんへ花を日新に出ていろ色

さらず。波うち茶葉なりのうち水色斑の地へ猛下肥なくてもれば蔓となり外伸る又八月初旬体へ猛色して去

同中布 ○茶寒改の茶葉に似たる中布ふくらんより次く花い同紙葉色

同白花 ○茶九月にて刈して厚く花白くて茶に同紙葉色

廿五 ちびね茶布 琉球名 ○階花根

○茶葉。茶井丁みぢくふに似て茶葉色ちらんに似たる赤花色くあり布い

三十一 ふくらん天鵞茶布

茶の葉少て伸ず布いたち体の布あり

○茶葉茶井形茶葉三ちく天鵞茶葉ちのをず小茶あり布いおくしぐみうる

鶯茶布 ○茶葉茶井形茶葉三ちく天鵞茶葉ちのをず小茶あり布いおくしぐみうる

布。八丈に宅傳号の産 ○根白まるかくさん上方に立市

廿三 ぜん茶茶布 ○宿根 ○白及 ○茶ちびね根ぬすみ白くなり白布にて茶やなく小結ぶ入ぜん茶ぶ色白し

出くあり ぜん茶の花文の形茶白花もあり。十日 茶の赤い日

(四五) 衣祥菜布 ○葉形釈香菜に似て丈二尺外のび枝白の布入あり花淡紫の花又い葉後より出るなり此の外野に多し天性のすき

(四六) 花精菜 布入二尺あり 根の色菜の変皮をむきてるるなり

花白 根の色菜の変皮をむきてるるなり

布入出ていなり。冬日 葉の形 花白 小菜 秋の末うす色の花実 花白細くなる後花より

(四四) 柳菜 花 ○葉らんの変せのなく花白小菜 秋の末うす色の花実 花白細くなる後花より

きくるけ尺蕾白布あり町 茎に布小あり

一名万年菜 根なし 茎とも小菜の細菜にて小菜ともいべき尺花ぢき

(四八) 雀菜 のれ。ふくりんなり。日

らんあをな

波り ○芸菜 葉長菜 二十八尺。茎。日向人菜に似たり

(四五) 博菜 ○一名。葉久菜 葉幅広く丈長く尺ぢやよく滑ぢて葉少くなれる中に唯菜の

花白にていなり 花地後花開いなり菜同様白花ぢよりなり

(四六) 家菜 ○葉形細く丈紡ず葉らんに似れども内に葉形花実葉長二尺あり 根も小菜に似少あり

波り

楚玉菜 ○葉形家らん尺似てひろあり花茎菜のなくにて白花茎出なり

波り 玉流菜 ○葉長くらん尺似て幅広く花あり葉先くれるあり茎出なる

花白 よりいまだ丈尺を年波り

(八) 令捷菜 ○葉菜 葉幅広く花実 花白 菜 葉形 花実 花白 菜 葉 花実 花白 菜 葉 花実 花白 菜 葉

㊀ なご葉。仙人指甲蘭　。葉ありとの不形にて葉先丸く厚く左右に葉出る花葉の中ばらべさく

㊁ にりゝん葉　。葉ぐらんなごらんのごとくにて葉幅せまく厚くなごの葉にりゝん葉同様夜間の色の

㊂ 風葉　。葉形蘭の花おりたるのごとくにて花咲時布入あり甲斐和田に葉不動寺後谷にあり

㊃ 莫蒙葉　救荒　。牛爾葉　。葉形莫蒙に似て厚くけるに葉まきく艶は花白ゆえ小艶く

㊄ 花蘭　。葉ゑびねのごとく花の色ゆえあり秋咲

㊅ 鶴葉　。葉形花葉に似て花葉より厚く三葉花持の形ごとく白花ゆえいきくゆえ花いきくふいくむ事ゑびねに

㊆ 双鶴葉　。葉細く小葉花雪白持の形ごとく花ゑびねゑびねの玉芽の皮のごとく古の分る根

㊇ 鶴子艸　。葉ひとつ根にて葉ゑびねを上葉とす表根より出る　。図

㊈ かや葉　。飛天蜈蚣　。葉風葉のごとく厚くくきあるて枝少葉少向りて出る葉色ある花咲

㊉ 南かゝ葉　。葉形相葉のごとくにて枝ある葉仏長本に似て艶少て紙樹ごとくきゝ出る

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

(九九) 榻草

○草もんこう枝のごとくにて横へ伸びくきそれぞれあり八丈に充満するの産

(九二) 檜木草

○草桧木に似て草くあぶさに草をりぎくき針のようにふえあり糸

(西) たこう草

○一名大豆岩石 ○草あり一つ草のごとくにて草先ひろくくき立根元小岩石

(西) 麦らん

○麥解 一名 ○豆岩石 ○草先とがり大豆岩石の様小あるもの

(九八) ふう草

○宿根 ○一名岩みかん 草立響草又ふりぎりに似て小草あるのあるごとく草の花さく

(西) 日光草

○藜盧 ○宿根 ○草はらんに似て 板草 ○柳葉菜 ○宿根 ○草柳のごとくにて 茂草の花咲 ○日

(九九) 玲草

○宿根 ○草 茎草の実はのごとく草地くちぎらんに似て小草白き花咲 ○中日

(九八) 撥草

○草ぶく本草 花眼樹に似て実ら黄皮梅子の実のごとく草軽ら遠くど孫物の花咲

○日

○草草ごく軟 ○はの字にあり

○松草ふ草ごく軟 ○まの字ふりう

○紫弾葉　○むの形ふあり　○石解葉　○せの葉あり

○むく郁

○梅　葉皆布入花皆十二ヶ月　○日　○うす白　○つ二ヶ月　○切つ二ヶ月　正月　○よ入他方初色ヶ七色見あり

八　翁梅

○茎白　○より布白　○出る花白　○大隅布白　○ヶ変　○ん　○計　○多　○出る

花太白布

○茎白　○より布白　○出布白　○より　○花　○花　○八色

八　五の出葉布

○ふ葉にて先とがり　○茎白　○より　○葉　○茎ふ出布　○出　○より　○本の色　○赤

いまゞ花いとゞ文化十二ヶ月入

九　花梅ふ杖布入

○白布にて　○ふり　○ふ　○ふ　○ん　○の枝も　○る花いまゞ

九　葉清常盤梅

○大坂天満　○葉　○清　○葉　○一ふ　○葉　○細　○ふ　○ん　○を　○綿　○葉　○の　○ち　○く　○花　○す　○ふ

一色ふ　○婦　○幸　○紅　○実　○政　○三　○初て　○年　○花　○ち　○ち　○後　○葉　○ぶ　○ふ　○年　○消　○り

同ふ

○ふん　○年　○梅　○葉　○図　○根　○ふて　○花　○葉　○ふ　○る　○よ　○し　○葉　○結　○きあ　○く　○花　○白　○出　○ふ　○ち　○く　○ず

八　命生梅

○ぶく布入　○軒　○葉　○色　○ふ　○筋入　○筋　○と　○ら　○ま　○ひ　○ら　○ま　○筋　○と　○ら　○じ　○の　○筋　○と　○ら　○ま　○ひ　○ら　○ま　○筋　○く　○花　○花　○色　○八　○き

九　筋とらじ

○軒　○白　○筋入　○花白　○一　○き　○十月　○ま　○ち　○咲

九　長右ふ紅筋とらじ

○右　○ふ　○筋　○と　○ら　○じ　○図　○根　○み　○き　○く　○ち　○ま　○布入　○花　○て　○き　○と　○花

九　長大平筋ちぶれ

○右　○図　○根　○み　○き　○く　○ち　○ま　○ち　○布入　○花白　○一　○き　○み　○き　○ち　○の入　○根　○ち　○年　○き　○く　○ち　○ち　○ち　○ふ　○ち　○ち　○ち

和辛菜 ○一名わさび。たねの新しきあるいは大根の苗の葉を喰とく採て黄ばまぬ

○梅嶺の新宮 ○白 ○う二九四十 ○う二ム中ム

○梅嶺の新宮 野菜博録 ○落霜紅 ○白赤く黄熟るるまでしるべし

梅ぼしき紅白 ○黄の色あるべき紅なり

同白辛 ○根白ふあるべし ○黄ばみあり

同けし辛 ○一名胡椒梅。小生梅感くおもき細く緒細のとく実梅小粒く長五の長心分べし

○夏水菜茅〻部

永行水穂樹布 ○無患子 ○白赤くて大なる黄熟るべし。○白 ○う二十 ○う二ム

国立公文書館
National Archives of Japan

淡う白むく

永き世ろ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ
ぢ

四十 白むくろ樹 ○むくろ葉にて花ばかり助るくろ葉よりくろ葉に入る歳葉せず 日 ○うに

四十一 ふの出むくろの木白布 ○糙葉樹 初歳芙布出法橋白日向ゆてやけず極上ぶ文政元辺 宝深孩絶根八入 日 ○うに二十 ○二三ノ中之

四十二 宝深ぶ葉ぶ布 ○鼠李 ○葉ぶ葉のまわりにて木接くまずふ色の変分見ゆ白布あり山白とい

四十三 上絵法 令義むれ雀ゆ子 ○金雀花 白き実の分れる一枝まり ○日 ○うに九 ○わ二 ○葉色ぶ色ぶ色にて木接の花同花芙蓉二月頃ゆ子のとく 新布入 ○日 ○うに九 ○わ二

むく毛 ○蘭子 ○葉ゆけび ○日 ○うに又 ○き六 ○わ二

四十四 海浜 小右衛つけ葉おりと白布 琉球名 ○天青地紫蘭 一名式葉浮葉 ○白布にて芙蓉葉に入れ葉ゆて元絵ぶ似て根の元ぶ実根元より子芽すず元波ぶ葉ぶ葉のうち

麻布仕立

久義ぶ葉おりと芙布 ○芙布れ白布より仕く芙布に愚ぶ孫ぶ外ゆても出る

同書性質系統

(甲) むかこ人参ふくりん。宿根。発芽きふくりん。並

(甲) 合次武依ぶどう布。宿根。茎形わくるまに似たる白布にて花形九段又いふ十九花形花色紫色にして紫色花色といけ花の色を云。並

五のきんちゃくの述

草木錦葉集巻之六終

宮内庁書陵部

文政十二己丑年十月

寫生　大岡　雲峰
　　關根　雲停

傭書　蚓可道人應需書

東京巣鴨　栽花園藏版

草木錦葉集

番画代内

姫いちご　実の軸もく　かんぞうの葉　かんぞうの葉　沈香木　実の軸もく　小おりと布入のもの部号のかたちと　編編之葉つき太く　五のうんぜん葉ふり　紅蘭竹　根元　栗ケ　南天葉中葉　はちぐの葉ふくりん　ひちの葉葉つき細く　吸決布　玉竹竹よ結ぶぞ　世　梅ちどり　実軸もく　板裏今張椒　玲仲英布椒　二ちとも布歌ちーぬぐ　布ーふち退てあらーあり　発ー

続編　三冊　うれ記ふりまの部　ほで　を刻

終編　三冊　けの部ふりすれ記　を刻

文政十二己丑歳十月出板

東都

著述人　故人　水野忠暁

出板人　府下平民　花園　内山長太郎

發兌人　小石川区巣鴨貳町目十四番地　書肆　和歌山縣平民　北畠茂兵衛　日本橋区通壱町目十五番地

国立公文書館
National Archives of Japan